

【収集体制見直しの目的】 合併前の収集体制を継続しているため、不統一となっている収集体制の統一

＜一般廃棄物処理基本計画との関連＞

（基本施策6） 効率的な収集運搬体制の構築

（基本施策8） ごみ出しが困難な市民に対する支援の検討

ごみの排出方法の概要

【湖西地区】

排出日	排出場所	出し方	現状の課題
収集日の朝	ごみステーション	指定ごみ袋 (可燃・不燃)	・排出マナーが良くない傾向。 ・収集時の火災事故の発生場所は湖西地区に集中。
いつでも可	資源物回収拠点	大型コンテナ (缶・ペット・プラ) 網袋 (白色トレイ) 小型コンテナ (びん・スプレー缶・乾電池)	・強風によりコンテナや、資源物が飛ばされる被害がある。 ・大型コンテナは内部が見えないため、ルール違反ごみの混入がわからない。 ・年末年始等の連休明けは、コンテナから資源物があふれる。 ・コンテナの維持管理費が必要。

【新居地区】

排出日	排出場所	出し方	現状の課題
収集日の朝	ごみステーション	指定ごみ袋 (可燃・不燃) ポリ袋 (乾電池)	・資源物をどこのごみステーションで収集しているか分かりづらい。
収集日の朝 (回収容器が設置された後)	一部のごみステーション	網袋 (白色トレイ・ペット・プラ) 小型コンテナ (缶・びん・スプレー缶)	・ペットボトルやびん等の回収には網袋や小型コンテナを置くスペースが必要。 ・網袋や小型コンテナの維持管理費が必要。

【見直しの基本方針】

- ・ごみ、資源物は、指定日に排出し、可能な限りごみステーションで収集する。
- ・湖西地区の資源物回収拠点で使用している大型コンテナは廃止する。

見直し案のイメージ

排出日	排出場所	出し方	見直しの目的
収集日の朝	可能な限り ごみステーション で収集	指定ごみ袋や 小型コンテナ等	・資源物を出せる場所を増やし、高齢者等のごみ出しをしやすくする。 ・転入者、外国人にとって分かりやすいルールとする。 ・違反ごみが地域住民の目に付きやすくし、マナーの向上を図る。 ・資源物回収拠点の維持管理経費の削減を図る。

【現在の排出日】

		排出日	
		湖西地区	新居地区
ごみ	燃やせるごみ	週2回	
	燃やせないごみ	月2回	
資源物	剪定枝・竹・草	月2回	
	プラマーク品	いつでも可	週1回
	白色トレイ		週1回
	ペットボトル		週1回
	飲料水缶		月2回
	びん		月2回
	スプレー缶・ライター カセットボンベ		月2回
	乾電池		月1回
	古 紙		いつでも可
	古 布		
	パソコン・携帯電話		
	天ぷら廃油		月1回

【市内共通の課題】

- ・収集日の前にごみが出されていることがある。
- ・市内で異なる排出ルールがあり、転入者、外国人には分かりづらい。

【湖西地区の課題】

(ごみステーション)

- ・ごみステーションで収集が無い日があり、収集日の前にごみが出されやすい。

(資源物回収拠点)

- ・資源物は常に出すことができ、休日や夜間の騒音が近隣住民の負担となっている。
- ・年末年始等の連休明けに、コンテナに入りきらない資源物が飛散することがある。

【新居地区の課題】

- ・ペットボトルや缶などの収集日の前に、回収用の網袋、小型コンテナを配置する必要がある。

ごみステーションの収集日のイメージ図(湖西地区)

	月	火	水	木	金
1週目	可燃		不燃	可燃	
2週目	可燃		剪定枝・竹・草	可燃	
3週目	可燃		不燃	可燃	
4週目	可燃		剪定枝・竹・草	可燃	

ごみステーションの収集日のイメージ図(新居地区)

	月	火	水	木	金
1週目	可燃	びん	プラマーク品	剪定枝・竹・草	可燃・ペットボトル・白色トレイ
2週目	可燃	飲料水缶 等	プラマーク品	不燃	可燃・ペットボトル・白色トレイ
3週目	可燃	びん	プラマーク品	剪定枝・竹・草	可燃・ペットボトル・白色トレイ
4週目	可燃	飲料水缶 等	プラマーク品	不燃	可燃・ペットボトル・白色トレイ

【排出日の見直し案】

		排出日	
		湖西地区	新居地区
ごみ	燃やせるごみ	週2回	
	剪定枝・竹・草		
	プラマーク品		
	白色トレイ		
	燃やせないごみ	月2回	
資源物	ペットボトル	週1回	
	飲料水缶	月2回	
	びん		
	スプレー缶・ライター カセットボンベ		
	乾電池		
	古 紙	いつでも可	
	古 布		
	パソコン・携帯電話		
	天ぷら廃油		

【見直し案について】

- ・湖西地区と新居地区でのごみの排出日の考え方を統一。
- ・ごみ、資源物は、指定日に排出する。
- ・ごみ・資源物の収集の頻度は、現在の新居地区の収集頻度と変わらない。
- ・収集の頻度は、県内市町の状況を参考とし、設定した。

【メリット】

- ・資源物回収拠点の周辺住民の負担軽減。
- ・休日や夜間の騒音防止。
- ・ごみの先出しがしづらくなる。
- ・連休中のごみ飛散を防止。

【デメリット】

- ・資源物を出せるのが収集日のみになる。

見直し後の収集日のイメージ図

	月	火	水	木	金
1週目	可燃	びん	不燃	可燃	ペットボトル
2週目	可燃	缶	スプレー缶 等	可燃	ペットボトル
3週目	可燃	びん	不燃	可燃	ペットボトル
4週目	可燃	缶	スプレー缶 等	可燃	ペットボトル

県内自治体(35市町)のごみ収集の状況

出典：一般廃棄物処理事業のまとめ(平成29年度) (県廃棄物リサイクル課まとめ)

- 数字は該当する市町の数を示す。
- 湖西市(湖西地区)が該当する箇所に着色した。
- 該当する市町が一番多い箇所を太字で強調した。

	収集回数			
	なし	週2回	週3回	週4回
可燃ごみ	0	29	5	1

		収集回数					
		なし	月1回	月2回	月4回	月7回以上 (常時排出可)	不定期
不燃ごみ		9	10	15	1	0	0
プラスチック系	プラマーク品	14	0	4	14	2	1
	白色トレイ	5	3	9	14	3	1
資源物系	ペットボトル	0	12	16	3	4	0
	金属(飲料水缶等)	1	16	12	3	2	1
	ガラス(びん等)	1	16	13	4	1	0
	紙類	11	3	18	1	0	2
	布類	19	4	4	0	1	7
その他	生ごみ	32	0	0	0	3	0
	粗大ごみ	12	6	4	3	1	9
	その他(乾電池等)	25	4	5	0	0	1

【現在の排出場所】

()内は収集の際に用いる容器を示す。

		排出場所	
		湖西地区	新居地区
ごみ	燃やせるごみ	ごみステーション (指定ごみ袋等)	
	燃やせないごみ		
資源物	剪定枝・竹・草	ごみステーション (指定ごみ袋等)	
	プラマーク品	資源物回収拠点 (大型コンテナ)	一部の ごみステーション (網袋)
	白色トレイ	(網袋)	(網袋)
	ペットボトル	(大型コンテナ)	(網袋)
	飲料水缶	(大型コンテナ)	(小型コンテナ)
	びん	(小型コンテナ)	(小型コンテナ)
	スプレー缶・ライター・ カセットボンベ	(小型コンテナ)	(小型コンテナ)
	乾電池	(小型コンテナ)	(ビニール袋)
	古 紙	古紙回収拠点 ※民間資源回収業者	
	古 布		
	パソコン・ 携帯電話	公共施設	
	天ぷら廃油	公共施設	ごみステーション・ 公共施設

【課 題】

【市内共通】

- ・合併前の収集方法を継続している。(1市2制度)
- ・資源物の排出場所が少なく、高齢者等が遠くまで持っていくのが大変。
- ・ごみと資源物で出す場所が異なり、わかりづらい。
- ・年末年始には、ごみステーションの容量が不足することがある。
- ・ごみステーションに事業系ごみが排出されることがある。
- ・地域外の住民によるごみ出しがある。

【湖西地区】

(ごみステーション)

- ・排出マナーが良くない傾向。
- ・収集車の火災事故の発生は湖西地区に集中。
- ・収集戸数が過大・過小のばらつきが大きい。

(資源物回収拠点)

- ・台風により資源物回収コンテナが飛ばされる被害がある。
- ・強風により資源物が飛散する。(ふたが開きっぱなし)
- ・コンテナ内部が見えないため、ルール違反ごみの混入がわからない。
- ・年末年始等の連休明けは、コンテナから資源物があふれる。
- ・コンテナの維持管理が必要。

【新居地区】

- ・資源物をどこのごみステーションで収集しているか分かりづらい。
- ・資源物の回収には網袋や小型コンテナを置くスペースが必要。
- ・収集日前に、網袋や小型コンテナを配置する必要がある。
- ・網袋や小型コンテナの維持管理が必要。

【収集場所の見直し案】

見直しの案の前提条件

- ・ごみ、資源物は収集日当日に排出する。
- ・湖西地区の資源物収集用大型コンテナは廃止する。

		I 収集場所	II 収集場所	III 収集場所
ごみ	燃やせるごみ	ごみステーション 湖西地区 500か所 新居地区 200か所	ごみステーション 湖西地区 500か所 新居地区 200か所	ごみステーション 湖西地区 500か所 新居地区 200か所
	剪定枝・竹・草			
	プラマーク品			
	白色トレイ			
	燃やせないごみ			
資源物	ペットボトル	一部のごみステーション 湖西地区 100か所+α 新居地区 100か所+α	資源物回収拠点 湖西地区 100か所 一部のごみステーション 新居地区 100か所	資源物回収拠点 湖西地区 100か所 一部のごみステーション 新居地区 100か所
	飲料水缶			
	びん			
	スプレー缶・ライター カセットボンベ			
	乾電池			
		〈ごみステーションで収集〉	〈スペースが確保できるところで収集〉	〈現在の資源物回収拠点を活用〉
メリット		・資源物の収集箇所が増加。 ・分かりやすい分別ルールになる。	・資源物の収集箇所が増加。 ・現在使用している小型コンテナ等を活用できる。	・資源物を収集するためのポリ袋は不要。 ・現在使用している小型コンテナ等を活用できる。
デメリット		・資源物を収集するためのポリ袋が必要。 ・びんやスプレー缶を集めるのにコンテナを使用すると置き場所が無いところがある。	・資源物を収集するためのポリ袋が必要。 ・資源物の排出場所が異なり、分かりづらい。	・ごみと資源物で排出場所が異なり、分かりづらい。 ・資源物が出せる場所は増えない。
収集方法との相性				
A 指定袋で収集		○	×	×
B コンテナ等を併用		×	○	○

●ごみ・資源物の収集方法について

- ・びんは色別に分けて収集するため、小型コンテナを色別に用意し、平ボディ車で収集している。
- ・スプレー缶は、収集時の火災を防ぐため、平ボディ車で収集している。
- ・ビニール袋を使って収集した場合、収集後に袋を破く作業が発生する。

	収集の方法	メリット	デメリット
A	ごみ・資源物ともに指定ごみ袋で収集する	資源物収集のためのコンテナ、網袋が不要。 全てのごみ・資源物がごみステーションで収集可能になる。	・資源物用ごみ袋を購入費用を負担していただく必要がある。 ・資源物用ごみ袋を導入する必要があり、その袋の分ごみ量が増加する。 ・収集後、袋に入った資源物を破いたり、選別する費用がかかる。 ・びんを色別に収集できなくなり、選別する必要がある。
B	指定ごみ袋と小型コンテナ、網袋を組み合わせで収集する	資源物用ごみ袋は不要。 資源物を収集しやすい容器を使い分けられる。 【指定ごみ袋で収集】 可燃ごみ・不燃ごみ 【小型コンテナで収集】 びん・スプレー缶・乾電池 【網袋で収集】 缶・ペットボトル	小型コンテナや網袋を配置できるスペースが必要。 小型コンテナや網袋を追加で購入する必要がある。 収集日前に、小型コンテナや網袋を配置する必要がある。

●他市町の状況(当課実施のアンケート調査より)

近隣9市へのアンケート結果

可燃ごみ、不燃ごみ、資源物を同じ場所で収集している市が多い。
可燃ごみと資源物を異なる場所で収集しているのは3市。
・可燃ごみ用ステーションと、資源物用ステーションがそれぞれある。(蒲郡市)

(令和2年10月1日現在)

	湖西市	浜松市	磐田市	袋井市	掛川市	豊橋市	豊川市	新城市	田原市	蒲郡市
人口	59,733	802,856	169,898	88,279	117,925	377,274	46,175	186,689	62,026	80,367
世帯数	24,282	340,896	68,462	35,236	45,519	160,113	17,709	77,257	22,585	32,803
可燃ごみの収集場所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
不燃ごみの収集場所	○	○	○	★	○	○	○	★	○	■
資源物の収集場所	■	○	○	★	○	○	○	★	○	■
世帯あたりのごみ集積所数	27.9	23.8	37.6	29.4	34.7	30.2	16.6	26.8	44.7	26.3

○ごみステーション

■資源物用のごみステーション

★その他

●指定ごみ袋の現状と課題

湖西市の指定ごみ袋の価格には、袋の製造費だけでなく、「ごみ処理手数料」が含まれています。
湖西市指定ごみ袋価格 30Lサイズ:15円/枚 20Lサイズ:10円/枚

①ごみ袋のサイズについて

現状	課題・懸念されること
20Lと30Lの2種類	・分別ルールの変更により、プラマーク品や剪定枝が可燃ごみとなるため、可燃ごみ袋の大型化が必要と思われる。 ・30Lより大きいサイズの可燃ごみ袋を要望する意見が寄せられている。

②資源物用袋の導入について

現状	課題・懸念されること
資源物は専用のコンテナや網袋等に出す	・ネット袋を収集日前に配置する必要がある。 ・コンテナやネット袋の維持管理経費がかかっている。

③可燃・不燃ごみ袋の共通化について

現状	課題・懸念されること
可燃ごみ・不燃ごみでそれぞれ異なるごみ袋を使用	・ごみ袋の種類が増えることによる保管、製造コストの増加 ・不燃ごみ袋は販売枚数が少ないため、製造コスト上昇の要因となっている。 ・ごみ袋ごとの販売数予測が立てづらい

④ごみ袋の価格設定について ※このテーマについては次回以降の会議で議論していく予定。

現状	課題・懸念されること
20L:10円/枚 30L:15円/枚	・現在のごみ処理原価を考慮した価格でない。(再稼働&新型ごみ袋導入の時期が見直しのタイミングではないか)

⑤事業系ごみ袋の導入について ※このテーマについては次回以降の会議で議論していく予定。

現状	課題・懸念されること
事業系ごみの袋は無い	・家庭用ごみステーションに事業系ごみが混入していることがある。

●指定ごみ袋の見直し案

①ごみ袋のサイズについて

変更案	メリット	デメリット
可燃ごみ袋に45Lサイズを追加する。	・分別ルール変更による可燃ごみの増量に対応。 ・かさばりやすいプラマーク品、剪定枝が排出しやすくなる。	・指定ごみ袋種類が増えることによる保管コストの増加。 ・製造数が減ることによる製造単価上昇の可能性。

※不燃ごみ袋については、破碎処理できないものや破碎が好ましくないもの（ストーブ等）が混入することを防ぐため、サイズの変更はしない

②資源物用袋の導入について（p7.「ごみ、資源物の排出場所について」 案Ⅰ・Ⅱに関連）

変更案	メリット	デメリット
資源物は、資源物用袋に入れてごみステーションに出す。	（案Ⅰ） ・コンテナ、網袋を事前に配置する必要は無い。 ・コンテナ、網袋等が不要となり、それらの維持管理コストを削減。 ・ごみと全ての資源物をごみステーションで収集可能になる。 （案Ⅱ） ・処理施設での選別作業は比較的容易。 ・ごみとペットボトル、缶をごみステーションで収集可能になる。	（案Ⅰ・Ⅱ） ・各家庭に資源物用袋の購入費用を負担していただく。 ・資源物用袋の分、ごみ量が増加する。 ・処理施設で袋を破く作業が必要となる。 （案Ⅰ） ・びんの収集を資源物用袋で行う場合、色別に分けての収集は難しいため、色別に選別し直す作業が必要。

※資源物の処理を有料化することについては、次回以降の会議で議論していく予定

③可燃・不燃ごみ袋の共通化について

変更案	メリット	デメリット
可燃・不燃ごみ袋を共通のものとする。	・ごみごとに袋を使い分ける必要が無くなり、排出ルールが分かりやすくなる。 ・ごみ袋種類の減少により、保管コストの削減 ・製造数の増加による製造単価削減の可能性	・現行の指定ごみ袋から移行する際の混乱が予想される。 ・正しく分別されているか、一目で分かりづらい。

●他市町の状況(当課実施のアンケート調査より)

可燃ごみ用

	サイズ	色	1枚あたり価格(円)	ごみ袋に記名
湖西市	20/30L	青色半透明	10/15	無
浜松市	10/20/30/45L	透明	市場価格 (参考価格 30Lサイズ:6~8円/程度)	無
磐田市	小/中/大/特大 (小は20L、中は30L、大は45L相当)	緑色半透明	市場価格	有
袋井市	20/30L	緑色半透明	市場価格	無
掛川市	20/30L	半透明に赤字	17.8/22	有
豊橋市	10/20/30/45L	半透明	市場価格	無
豊川市	縦800mm×横650mm以下 厚さ0.03mm以上	赤色半透明	市場価格	無
新城市	30/45L	黄色半透明	市場価格	無
田原市	10/20/30/45L	青色半透明	5/10/15/22.5	無
蒲郡市	10/25/30/45L	黄色半透明	市場価格	無

不燃(こわす・うめる)ごみ用

湖西市	20/30L	透明	10円/15円	無
浜松市	可燃ごみ用と兼用			
磐田市	小/中/大/大(厚口)	透明	市場価格	有
袋井市	なし(専用のコンテナに出す)			
掛川市	30L	半透明に青字	22円	有
豊橋市	(こわすごみ) 10/20/30/45L	半透明	市場価格	無
豊川市	縦700mm×横500mm以下 厚さ0.04mm以上	透明	市場価格	無
新城市	なし(専用のコンテナに出す)			
田原市	可燃ごみ用と兼用			
蒲郡市	なし(専用のコンテナに出す)			

事業系可燃ごみ用

磐田市	特大	青	市場価格	有
-----	----	---	------	---

生ごみ用

豊橋市	2/5/10/15/30L	黄色半透明	市場価格	無
-----	---------------	-------	------	---